

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
訪問介護技術演習Ⅰ(こころとからだのしくみと生活支援技術)		2年	前期	時間割参照
Course of Study on Visiting Care-Giver I				
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (訪問介護員ユニット必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特記なし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
「訪問介護員講座Ⅰ」 「訪問介護員講座Ⅱ」 「訪問介護技術演習Ⅱ」 「訪問介護技術演習Ⅲ」				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
新井文子・森千佐子	福祉棟2階	初回授業にて説明	授業中に指示します	
授業の概要				
生活支援技術の基本となるこころとからだのしくみに関する知識を習得する。そのうえで、日常生活の基本となる移乗・移動に関する基礎知識や技術について学ぶ。さらに福祉用具の活用により自立に向けた個別性のある技術についても習得する。				
授業の到達目標				
①介護に関するこころとからだのしくみおよびICFの視点に基づいた基本的な考え方を理解することができるようにする。 ②移動に関するこころとからだのしくみを理解し、自立に向けた適切な生活支援技術を習得できるようにする。 ③移動に関連した福祉用具の適切な使用方法を習得し、活用できるようにする(褥瘡予防を含む)。 ④緊急時における基本的な対応方法を習得できるようにする。				
授業の方法				
演習科目であるが、講義も併用しておこなう。				
学習の成果				
①介護に関するこころとからだのしくみおよびICFの視点に基づいた基本的な考え方を理解することができる。 ②移動に関するこころとからだのしくみを理解し、自立に向けた適切な生活支援技術を習得することができる。 ③移動に関連した福祉用具の適切な使用方法を習得し、活用することができる。 ④視覚や運動機能に障害のある人の移動に関する技術を習得することができる。 ⑤緊急時における基本的な対応方法を習得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスにそって)、演習時の注意事項・演習室の使い方 基本知識の学習① 基本的なこころとからだのしくみ			
第2回目	基本知識の学習② 基本的なこころとからだのしくみ、ICFに基づく介護の基本的な考え方			
第3回目	基本知識の学習③ 介護に関するからだのしくみ、移動に関わる障害と生活障害			
第4回目	基本知識の学習④ 基本的な体位と安楽な体位(褥瘡予防を含む)			
第5回目	移動に関わる生活支援技術① ボディメカニクス			
第6回目	移動に関わる生活支援技術② 移動に関する福祉用具 種類と使い方 【演習】			

第7回目	移動に関わる生活支援技術③ 片麻痺のある人への体位変換(一部介助) 側臥位、端座位 【演習】	
第8回目	移動に関わる生活支援技術④ 片麻痺のある人への移乗(一部介助) 車椅子、ストレッチャー(レポート1) 【演習】	
第9回目	移動に関わる生活支援技術⑤ 片麻痺のある人への体位変換、移乗(全介助) 側臥位、端座位、車椅子 【演習】	
第10回目	移動に関わる生活支援技術⑥ 視覚に障害のある人の歩行介助 【演習】	
第11回目	移動に関わる生活支援技術⑦ 運動機能に障害のある人の体位変換、移乗(一部介助、全介助) (レポート2) 【演習】	
第12回目	緊急時の対応① 利用者の理解、予想される事故、緊急度の判断、適切な体位、運搬法	
第13回目	緊急時の対応② 創傷、熱傷、骨折、気道異物の除去	
第14回目	移動に関わる技術習得の確認(筆記試験含む)	
第15回目	緊急時の対応③ 止血法、包帯法 救急箱 【一部演習】	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合 評価の基準
授業参加態度	20%	配布資料を活用し、自主的にメモしている。演習時は身支度を整え、積極的・自主的に参加している。
レポート	20%	振り返り 2本:演習内容を踏まえ、利用者役・介護者役両面からの学びを記載していること。
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験	60%	選択式・記述式を主とする筆記試験である。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
①介護職員初任者研修課程テキストシリーズ 3巻 (日本医療企画) ②生活支援技術の手引き		
履修上の心得・ルール		
選択科目であるから目的意識を持ち意欲的に取り組むことを望む。講義・演習ともに積極的に臨み、演習時は身だしなみを整えること。また、自己練習し、技術の向上に努めること。		